

平成29年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業実施状況(秋田県)

1 教育・保育の現状と課題

県の教育・保育の課題	
(1)	県教育委員会を中心とする推進体制であるため、地域の実情や園のニーズに即し、機動的に幼児教育の指導・助言を行う体制が不十分である。
(2)	幼保推進課主催研修会の大半を中央地区で実施せざるを得ず、遠方の園からの参加が困難であり、地域での研修会の開催や身近に相談ができる体制を望む声がある。
(3)	市町村が所管する施設に対し、幼児教育に関する指導・助言ができる人材の育成や組織の整備が不十分である。

2 目的、重点、実施内容

目的(3年間)	
体系的な研修の提供等により保育者の資質・能力の向上を図るとともに、県及びモデル市となる市町村(3市)に「教育・保育アドバイザー」を育成・配置し、県とモデル市が連携・協力して0～5歳児の教育・保育を推進する体制を構築することで0～5歳児の教育・保育の質的向上を図る。	
重点(平成29年度)	
(1)	1年目の取組の成果と課題を踏まえ、保育者の資質・能力向上のための研修会や、モデル市の課題解決に向けた県とモデル市の連携・協力体制の充実を図る。
(2)	「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム」の開催により、調査研究内容を全県及び東北地区の幼児教育行政機関等に発信し、啓発を図る。
実施内容(平成29年度)	
(1)	幼保推進課における幼児教育センター機能の強化 ①「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」(本案)の作成(～平成30年度) ②保育者の専門性向上を図る研修会の実施 ③調査研究実行委員会による研究推進体制の検証 ④教育・保育アドバイザーの人材育成 ⑤全県及び東北地区の幼児教育行政機関等に対する調査研究内容の発信
(2)	県とモデル市の連携・協力体制によるモデル市の幼児教育推進体制の構築 ①県とモデル市の連携・協力によるモデル市及び園の課題解決支援 ②モデル市教育・保育アドバイザー間の関係性の構築

3 平成29年度の実施状況

(1)「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」(本案)の作成(～平成30年度)

目的	幼稚園教育要領改訂、保育所保育指針改定、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴い、県の幼児教育の指針となる「就学前教育振興アクションプログラムⅡ」を作成する。
実施状況	<p>就学前教育振興アクションプログラムⅡ素案及び各新要領・指針をもとに、ワーキングチーム会議において本案を作成している。調査研究実行委員の提言や事務局関係各課からの意見を参考に整えている。また、園関係者で委員を構成する外部検討委員会を開催し、本冊子を活用する立場から意見をいただいた。</p> <p>◇ワーキングチーム会議(6/6、8/25、10/20、1/19、2/16 年6回) 委員：幼保推進課及び北・南教育事務所(指導主事及び幼保指導員)</p> <p>◇外部検討委員会(1/24 年1回) 委員：国公立・私立幼稚園、公立・私立保育所、公立・私立幼保連携型認定こども園職員</p>

(2) 研修の機会提供

目的	園内の研修を推進する保育者に対して、園内研修の企画・推進方法等についての研修を実施し、園内研修リーダーとしての資質向上を図る。また、保育者と小学校教員が合同で行う研修を実施し、就学前及び小学校の教育における円滑な接続の在り方について就学前教育・保育施設と小学校の教職員間の相互理解を深める。																																																												
実施状況	<p>①園内研修リーダー養成講座</p> <p>平成 28 年度は、年 2 回の実施であったが、参加者のニーズの高さを踏まえ、研修手法を中心に学ぶ基礎編と、研修のマネジメントを中心に学ぶ応用編を設定し、それぞれ各 2 回ずつ実施。応用編には、地域の他園の研修に参加し、研修の方法等を意見交換する場を設けた。</p> <p>◇期日、場所等</p>																																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基礎編 I、II</th> <th>応用編 I、II</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期 日</td> <td>8 / 1 ~ / 2</td> <td>5 / 16、11 / 22</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>県生涯学習センター</td> <td>県生涯学習センター</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>幼 12、保 85、認 42、他 6 計 145 名</td> <td>幼 7、保 44、認 40、他 4 計 95 名</td> </tr> <tr> <td>講 師</td> <td colspan="2">大阪総合保育大学 准教授 高根 栄美 氏</td> </tr> </tbody> </table>					基礎編 I、II	応用編 I、II	期 日	8 / 1 ~ / 2	5 / 16、11 / 22	場 所	県生涯学習センター	県生涯学習センター	参加者	幼 12、保 85、認 42、他 6 計 145 名	幼 7、保 44、認 40、他 4 計 95 名	講 師	大阪総合保育大学 准教授 高根 栄美 氏																																											
		基礎編 I、II	応用編 I、II																																																										
	期 日	8 / 1 ~ / 2	5 / 16、11 / 22																																																										
場 所	県生涯学習センター	県生涯学習センター																																																											
参加者	幼 12、保 85、認 42、他 6 計 145 名	幼 7、保 44、認 40、他 4 計 95 名																																																											
講 師	大阪総合保育大学 准教授 高根 栄美 氏																																																												
◇内容、受講者アンケート評価																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座</th> <th>内 容 等</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">基 礎 編</td> <td>【講義】「園内研修の計画の作成と研修の進め方」</td> <td>54</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義・演習】「子ども理解の方法としての KJ 法について」</td> <td>56</td> <td>42</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義・演習】「参加型研修～参加の役割」「模擬研修」</td> <td>53</td> <td>44</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義・演習】「写真と付箋紙を使った研修手法」</td> <td>60</td> <td>38</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義】「映像や写真を使ったドキュメンテーションの理解」</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【演習】「保護者に伝える遊び紹介ポートフォリオの作成」</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">応 用 編</td> <td>【講義】「求められる園内研修リーダー像 リーダーの資質・能力」</td> <td>44</td> <td>56</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義】「園内研修リーダーの役割 コーチングとは」</td> <td>55</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【グループ協議・情報交換】「園内研修を進める上での課題対応」</td> <td>56</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>【講義・演習】「コミュニケーションスキルを生かして～新人保育者や保護者に対する支援～」</td> <td>55</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※A～Dは、受講者アンケート (%) A十分満足 B満足 Cやや不満 D不満)</p>				講座	内 容 等	A	B	C	D	基 礎 編	【講義】「園内研修の計画の作成と研修の進め方」	54	46	0	0	【講義・演習】「子ども理解の方法としての KJ 法について」	56	42	2	0	【講義・演習】「参加型研修～参加の役割」「模擬研修」	53	44	3	0	【講義・演習】「写真と付箋紙を使った研修手法」	60	38	2	0	【講義】「映像や写真を使ったドキュメンテーションの理解」	53	46	1	0	【演習】「保護者に伝える遊び紹介ポートフォリオの作成」	53	46	1	0	応 用 編	【講義】「求められる園内研修リーダー像 リーダーの資質・能力」	44	56	0	0	【講義】「園内研修リーダーの役割 コーチングとは」	55	46	0	0	【グループ協議・情報交換】「園内研修を進める上での課題対応」	56	44	0	0	【講義・演習】「コミュニケーションスキルを生かして～新人保育者や保護者に対する支援～」	55	46	0	0
講座	内 容 等	A	B	C	D																																																								
基 礎 編	【講義】「園内研修の計画の作成と研修の進め方」	54	46	0	0																																																								
	【講義・演習】「子ども理解の方法としての KJ 法について」	56	42	2	0																																																								
	【講義・演習】「参加型研修～参加の役割」「模擬研修」	53	44	3	0																																																								
	【講義・演習】「写真と付箋紙を使った研修手法」	60	38	2	0																																																								
	【講義】「映像や写真を使ったドキュメンテーションの理解」	53	46	1	0																																																								
	【演習】「保護者に伝える遊び紹介ポートフォリオの作成」	53	46	1	0																																																								
応 用 編	【講義】「求められる園内研修リーダー像 リーダーの資質・能力」	44	56	0	0																																																								
	【講義】「園内研修リーダーの役割 コーチングとは」	55	46	0	0																																																								
	【グループ協議・情報交換】「園内研修を進める上での課題対応」	56	44	0	0																																																								
	【講義・演習】「コミュニケーションスキルを生かして～新人保育者や保護者に対する支援～」	55	46	0	0																																																								
<p>◇受講者の声 (幼：幼稚園、保：保育所 認：幼保連携型認定こども園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 日間の研修を通して、自園の研修計画の改善方法が見つかるとともに、新たな課題にも気付くことができた。参画意識をもって研修に参加してもらう工夫や、協議内容の可視化について取り組みたい。職員の質の向上につながる内容ばかりだった。(保) ・ 研修リーダーとして指導しようという気持ちが先にたっていたことを反省させられた。「協働」の意識をもちながら他の先生方の力を生かしたい。(認) ・ 園内研修における P D C A を理解し、実践していくことはもちろんだが、他園の研修への参加など外部の学びをもとに、自園の職員間の学び合いへの意識を高めていくことが必要だと感じた。(幼) 																																																													



写真を用いた研修手法の実践
(基礎編 秋田県生涯学習センター)

◇応用編 実践課題「他園の研修リーダーに学ぶ」の取組

園内研修リーダー（応用編）受講者が、研修リーダーとしての資質・能力の向上に資することを目的に、他園の園内研修への参加することを課題とした。他園の研修への参加率は65%であった。受講者の任意ではあるが、実施初年度としては予想以上に高い参加率であり、他園の研修の進め方について関心の高さがうかがえる。地理的に参加が厳しい園や園内行事等との調整がつかない場合もあったが、園種や公・私の垣根を越えた参加があり、積極的に他園の研修に赴き、学びたいという意欲があった。受け入れ先の園長等の理解もあり、どの訪問先でもスムーズな参加状況であった。訪問先での活動は研究協議への参加や運営に関する情報交換が多く、研修リーダーにとって必要感のある取組であった。

参加状況

参加率	65.2% (58/89人)
他の園種への訪問	65.5% (38/58人)
公立⇄私立の訪問	10.3% (6/58人)
他市町村への参加	25.8% (15/58人)



市町村を越えた園内研修の参加
(大湯保育園、男鹿市の保育者が参加)

訪問先での活動内容（複数回答）

保育参観を伴った研究協議の進め方	75.8% (44/58人)
計画の立案、研修時間の設定の工夫	25.8% (15/58人)
公開保育研究会でのリーダーの役割	31.0% (18/58人)
その他	12.0% (7/58人)

参加者の感想等

他園の研修に参加して良かった	96.5% (56/58人)
今後も他園の研修に参加したい	93.1% (54/58人)
他園との参加交渉の難しさがあった	0% (0/58人)

※他園の研修への参加ニーズが高い。公・私立、園種を問わない研修が可能である。

参加者の声（幼：幼稚園、保：保育所 認：幼保連携型認定こども園）

- ・他の園の研修に参加したことがなかったが、新たな発見や勉強になることが多く、刺激を受けた。研修リーダーの間で情報交換できたことがうれしかった。保育者の連携・協力体制を築くことの大切さを研修リーダーから学んだ。
- ・参加者の意見の肯定的な受け止めや、他の参加者の意見とのつながりを見いだすファシリテーターの姿勢が勉強になった。
- ・子どもが主体的に環境に関わる姿、それを支える環境の構成の工夫に感銘を受けた。
- ・まとめやすい用具、協議の時間配分、資料の事前配付等、効率的よく研修を進める工夫が素晴らしかった。

②就学前・小学校地区別合同研修会

地域における就学前及び小学校の教育における円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校等の教職員間の相互理解を深めるとともに、各教職員の資質の向上を図ることを目的に実施。県内3地区を会場に実施。接続期の子どもに大切にしたい育ちや学びについて保育者と小学校教員が活発に意見交換をした。

◇期日、場所等

	北地区	中央地区	南地区
期日	7/24	8/8	7/27
場所	北秋田市交流センター	八郎潟町えきまえ交流館	浅舞公民館
参加者	就学前78、小学校59、行政5 計142名	就学前67、小学校36、行政1 計104名	就学前105、小学校48、行政1、計154名
講師等	秋田大学教育文化学部 教授 奥山 順子氏、秋田大学教育文化学部 准教授 千葉 圭子氏、他小学校関係者、就学前施設関係者		

◇内容、受講者アンケート評価

地区	内 容 等	A	B	C	D
全 県	【鼎談】「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 就学前の遊びの成果を学びにつなぐ」(3地区共通)	53	45	2	0
北	【実践発表】「就学前教育・保育施設と小学校との連携の実際」 【グループ協議・情報交換】「接続期で大切にしたい子どもの育ちや学び」～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点として～	56	42	1	1
中 央	【実践発表・グループ協議】「就学前の遊びの成果を学びにつなぐ」	50	48	2	0
南	【グループ協議】「就学前の遊びの充実を児童期の豊かな学びにつなぐ」 「小学校に入学したばかりの困り感をさぐる」	58	40	1	1

(※A～Dは、受講者アンケート(%)) A十分満足 B満足 Cやや不満 D不満)

◇受講者の声(小:小学校、前:就学前)

- ・「遊び」の大切さに気が付かされた。就学前と小学校の学びのつながりの実感した。(小)
- ・子どもの育ちや学びを支えるために、就学前施設と小学校が連携することの重要性を感じた(前)
- ・就学前教育と小学校教育の違いを理解した上で、意見交換することが大切だと思った。(前)
- ・園の先生の子どもの思いに寄り添う姿を参考に、小学校でも一人一人の思いを大切にしていきたいと思った。(小)



保育者と小学校教員によるグループ協議(八郎潟町えきまえ交流館)

(3)教育・保育アドバイザーの人材育成

目 的	就学前教育・保育の質の維持・向上に向け、県とモデル3市(大館市、男鹿市、横手市)の教育・保育アドバイザーに対し、園の教育・保育内容に対する指導・助言内容等に関する研修や活動の支援を行い、その専門性の向上に資する。								
実 施 状 況	<p>モデル市教育・保育アドバイザーの専門性の向上のための研修機会として、平成28年度に実施した「指導主事及び幼保指導員による園訪問への同行」と「幼保推進課主催の研修会への参加」に加え、今年度は「教育・保育アドバイザー連絡協議会」「県教育・保育アドバイザー要請訪問」を実施した。</p> <p>①教育・保育アドバイザー連絡協議会</p> <p>保育者が抱える課題への対応、参加者の主体性を尊重する研修方法の理解等により、よりよい指導・助言の在り方を探り、専門性の向上を図る研修機会を提供した。市アドバイザーのニーズをもとに、実践的な内容も含め、年6回とした。(H28年度4回)</p> <p>◇期日・場所等</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>期 日</td> <td>5/12、6/7、9/1、9/28、10/27、1/19 (計6回)</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>秋田県庁第二庁舎、秋田大学教育文化学部附属幼稚園、幼保連携型認定こども園山王幼稚園・保育園</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>モデル市(大館市、男鹿市、横手市)の教育・保育アドバイザー6名</td> </tr> <tr> <td>講 師</td> <td>幼保推進課指導主事及び幼保指導員、県教育・保育アドバイザー</td> </tr> </tbody> </table>	期 日	5/12、6/7、9/1、9/28、10/27、1/19 (計6回)	場 所	秋田県庁第二庁舎、秋田大学教育文化学部附属幼稚園、幼保連携型認定こども園山王幼稚園・保育園	参加者	モデル市(大館市、男鹿市、横手市)の教育・保育アドバイザー6名	講 師	幼保推進課指導主事及び幼保指導員、県教育・保育アドバイザー
期 日	5/12、6/7、9/1、9/28、10/27、1/19 (計6回)								
場 所	秋田県庁第二庁舎、秋田大学教育文化学部附属幼稚園、幼保連携型認定こども園山王幼稚園・保育園								
参加者	モデル市(大館市、男鹿市、横手市)の教育・保育アドバイザー6名								
講 師	幼保推進課指導主事及び幼保指導員、県教育・保育アドバイザー								

◇内容

保育参観及び保育者に対する指導・助言方法の協議、保育の見方についての協議、新要領・指針の理解、コーチングの理解、事例検討 等

◇教育・保育アドバイザーの声

- ・演習で保育者役になった時には、指導・助言を受ける側の思いについて深く考えさせられた。保育者の努力や変容を認めながら意欲を喚起し、共に課題を解決していく姿勢をもち続けていきたい。
- ・保育者が自ら課題に気付き、よりよい保育を目指したいと思うような助言方法を身に付けたい。
- ・他のアドバイザーと情報交換する機会となり、有意義な場であった。



保育者への指導・助言方法を議論する県と市のアドバイザー（秋田県庁第二庁舎）

②県教育・保育アドバイザー要請訪問

モデル市からの要請に基づいて、県教育・保育アドバイザーが現地でモデル市教育・保育アドバイザーの活動に対する支援をした。県教育・保育アドバイザーの指導内容は、園や保育者の課題に対する指導・助言方法や、研修会の内容、企画・運営方法が主なものである。

③幼保推進課所管研修会への参加

幼保推進課主催の研修会への参加により、研修会の企画・運営方法及び研修会で取り上げる教育・保育内容について、モデル市教育・保育アドバイザーの理解を深めた。

④県指導主事等訪問への同行

公立幼稚園・公立幼保連携型認定こども園計画訪問、認定こども園訪問、幼稚園・保育所・認定こども園等要請訪問、認定こども園サポート事業に係る訪問時に、市教育・保育アドバイザーが同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。

(4)事業の成果の情報発信「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム」

目的

事業を通して県と市町村が連携・協力して0～5歳児の教育・保育を推進する体制を構築し、質の向上を図るための取組や成果を広く発信することで、全ての市町村における教育・保育推進体制の充実を図る。

実施状況

大阪総合保育大学学部長 大方 美香氏による基調講演や、県とモデル市の連携・協力による事業内容の発表、パネルディスカッション等を通して、就学前教育・保育の質の向上を目指した今後の推進体制構築について考える機会となった。

◇期日・場所等

10/4 秋田県児童会館 子ども劇場

◇参加者

県内行政・園関係者 193名
県外関係者 24名 計 217名



自治体の連携・協力による教育・保育の推進体制構築をテーマに意見交換がされたパネルディスカッション

(秋田県児童会館)

	<p>◇参加者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県で直面している問題解決の糸口や来年度の方向性を数多く見いだすことができた。やはり、秋田県のように公立・私立や園の設置形態を越えて、「県の子どもを育てる」意識をもって取り組みたい。(県外行政関係者) ・県とモデル3市との連携の在り方を明確にし、各園の支援体制がしっかりされていると思いました。アドバイザーを核として、研修を中心に保育の質の向上を目指していることがよく分かりました。(県外行政関係者) ・教育・保育の質の向上や保育者の専門性の向上のため、事業をうまく活用しながら指導・支援してくださっていることを改めて感じ、ありがたく思った。(県内園関係者) ・教育・保育アドバイザーを軸にした訪問指導や、幼小の接続を考えた合同研修会など、県と市が連携しながら保育者の学びの場を充実させていることがよく分かった。(県内園関係者) ・それぞれの地域での課題に対し、どの地域でも園単独ではなく、行政と園が協力しながら研修等を行っており、地域で子どもを支えていこうという気持ちを感じた。(県内園関係者) ・モデル事業の内容がよく理解できた。県・市アドバイザーがどのような立場で活動されているのか、具体的な情報(勤務形態、任期、賃金等)を後で伺いたい。(県内行政関係者) ・国の動向、県の推進状況、そして先進的な3市の取組について多くのことを学んだフォーラムでした。本市に足りない施策について、早速、検討して行きたいと思います。(でも、予算はやや心配。)(県内行政関係者) ・ぜひ、他市も含めてアドバイザーの育成・支援を継続していただきたい。また、参加していない他市町村との連携会議等も開催していただきたい。(県内行政関係者) ・アドバイザーとなりうる人材がいいため、外から客観的に見て意見を言ってもらえるような方を県から派遣するなどの対応も考えてほしい。(県内行政関係者)
--	--

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1)教職員の専門性の向上「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」の作成(～H30)

改善	・調査研究実行委員の提言や外部検討委員会の意見等、幅広い意見をもとに内容を吟味し、園関係者等が活用しやすい冊子を作成する。
-----------	---

(2) 教職員の専門性の向上(研修の機会提供)

成果	・園内研修リーダーの育成や、小学校への円滑な接続に向けた理解促進のための合同研修会の開催により、本県の就学前教育・保育の課題への対応が可能となっている。
課題	・保育者の他園の研修への参加ニーズへの対応。 ・就学前施設における小学校教育との接続を意識した指導計画の作成。
改善	・園内研修リーダーの交流等、公・私立、園種を越え、近隣の他施設の研修に参加し、学び合う機会の充実を図る。 ・小学校教育への円滑な接続に向けた取組の理解を図るため、就学前施設における小学校教育との接続を意識した指導計画の作成等、内容面の充実を図る。

(3)県とモデル市の連携・協力(教育・保育アドバイザーの人材育成)

成果	・新たな人材育成方法として位置付けた教育・保育アドバイザー連絡協議会や、県教育・保育アドバイザー要請訪問をモデル市教育・保育アドバイザーの専門性の向上に寄与している。
課題	・市教育・保育アドバイザーのニーズへの対応。 ・他市町村の希望への対応。
改善	・今年度の実施内容を継続し、モデル市教育・保育アドバイザーの専門性の向上を支援していく。他市町村からの視察にも柔軟に対応する。

(4)事業の成果の情報発信(「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム」)

成果	・県内行政関係者及び園関係者に対する県の幼児教育推進体制構築の方向性の理解を図ることができた。
課題	・県とモデル市の連携・協力体制によるアドバイザー配置効果の発信。 ・平成31年度以降のアドバイザー配置の拡充構想の発信。
改善	・教育・保育アドバイザーや園内研修リーダーが機能した研修会の公開や、園関係者等へのアンケート等によるアドバイザーの配置効果の検証結果を発信する。

5 平成30年度の事業見通し

目的	<p>(1) 2年目の取組における成果と課題を踏まえ、調査研究体制の改善を図り、幼児教育センターとしての幼保推進課の機能強化を図る。</p> <p>(2) 県とモデル市の教育・保育アドバイザーの連携体制を生かし、各モデル地区の幼児教育の課題への対応等、幼児教育推進体制の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 本事業の必要性や成果を全国及び県内の幼児教育行政機関等に発信することにより、幼児教育の推進体制構築の理解を図る。</p>
実施内容	<p>幼児教育センターの機能強化</p> <p>(1) 教職員の専門性の向上</p> <p>① 県の教育・保育の指針の改訂、周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県就学前教育アクションプログラムⅡの完成、配付 <p>② 保育者の専門性向上を図る研修機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージに応じた体系的な研修の見直し、実施 ・県の課題に応じた研修（リーダー養成、円滑な接続）の実施 <p>(2) 外部専門家等との連携</p> <p>① 調査研究実行委員会による事業推進への助言、成果の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の内容に関するアンケート（悉皆）調査、結果公表 <p>② モデル市に対する外部専門家の人材情報提供</p> <p>(3) 事業の成果の情報発信</p> <p>① 「わか杉っ子！全国フォーラム in 大館（仮称）」の開催</p> <p>② ホームページや市町村訪問等による取組の情報発信</p> <p>モデル市の取組への支援</p> <p>(4) モデル市教育・保育アドバイザーの育成</p> <p>① 教育・保育アドバイザー連絡協議会の開催</p> <p>② 県主催の研修会、園訪問への参加</p> <p>③ モデル市の要請による県教育・保育アドバイザーの派遣</p> <p>(5) 県とモデル市の連携・協力</p> <p>① 県及び市教育・保育アドバイザーの連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県とモデル市の連携による園の課題解決に向けた重層的支援 <p>② モデル市の取組への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究実行委員会の提言